



新しい医師のご紹介

2023年6月発行
済生会横浜市南部病院
編集：

平松 裕貴 医師

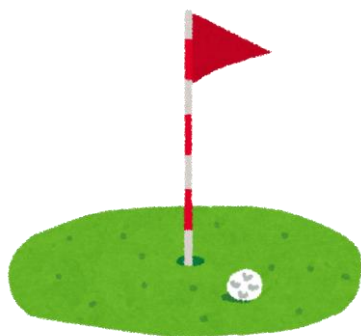
はじめまして。4月から南部病院で勤務しております、平松 ゆきと申します。研修は都内で2年間勤務しましたが、その後は横浜の病院で働いております。南部病院の魅力はアクセスの良さ、そして他職種とのつながりだと思います。糖尿病は慢性の疾患であり、合併症も多岐に渡ります。その為、科同時の連携が必要ですし、生活の中に治療を取り入れていくには、療養指導にあたる看護師さんや薬剤師さん、管理栄養士さん、検査技師さん、そして理学療法士さん達の様々な視点が大切です。

南部病院で、患者さんを取り巻く環境や退院後の状況について、チームで連携しあい、生活の基盤と幸せをサポートできれば幸いです。また、近年スティグマ(いわれなき差別)も話題にあがっており、医療従事者と患者さんとの関係性や、疾患への正しい理解と普及の重要性を感じます。患者さんが安心して生活を送り、活気のある社会を作れるよう、日々の活動を通して邁進して参ります。



新井 萌 医師

4月より南部病院糖尿病内分泌内科に勤務させていただいている新井萌です。最近、走れるようになったばかりの子供と遊ぶだけで息が上がり、運動不足を実感しております。思い返せば、仕事について早数年、運動からは遠ざかった生活を送ってきました。大学時代は、毎日のように友人とボウリングやゴルフ練習をしていたのは遠い昔のことです。仕事柄、患者様に「運動しましょう。」と簡単に言ってしまうのですが、実行するのは難しいと身をもって実感しました。あの頃は、仲間と共に楽しんでいたので運動が習慣化できたのかなとも思います。皆様にも家族でも友人でも仲間を見つけ、好きな運動から始めることをお勧めします。また、近頃「労働衛生」に興味を持っており、これは、労働者の健康維持を目的としています。患者様の中には就業されながら通院されている方も多数いらっしゃるのでは、少しでもお役に立てるよう勉強を続けます。よろしくお願い致します。



ひまわり会では、患者会の活性化のためにも会員数を増やしたいと考えています。当院に通院中の患者さん以外でも会員になれますので、患者さんのご紹介をお願いします。

中村 奎太 医師

こんにちは。4月から南部病院に赴任しました、糖尿病内分泌科の中村奎太と申します。

南部病院のような大きな病院は患者さんにとって初めて病気を伝えられる場所になることも多いと感じています。僕自身もこれまで何度か大きな病院を受診したことがあります。診察を受けるまでの待ち時間が不安で苦手だったことを思い出します。どうしても不安に感じるのか考えたときに、病気の有無もちろん、それによって生活が変わってしまうことへの不安があるのではないかと感じています。

外来や入院の場では病気について適切な情報をお話しすることに加え、どのくらい生活が変わるのかまで踏み込んでお話できるよう心がけています。どうしても糖尿病などは生活を変えていただく必要の多い病気にはなりますが、皆さんと一緒に前向きに取り組んでいけたら嬉しいです。よろしくお願いします。



高橋 俊貴 医師

初めまして。今年4月から南部病院の糖尿病・内分泌内科として勤務いたします高橋 俊貴と申します。これまで横浜で生まれ、横浜で育ってきましたが、南部病院付近の地域とはあまり馴染みがなく全てが新鮮に感じている毎日です。

初めまして。今年4月から南部病院の糖尿病・内分泌内科として勤務いたします高橋 俊貴と申します。これまで横浜で生まれ、横浜で育ってきましたが、南部病院付近の地域とはあまり馴染みがなく全てが新鮮に感じている毎日です。

糖尿病は慢性的な疾患であり、自覚症状がなかなか出ないため、治療について悩んだり戸惑うこともあるかと思います。外来もしくは入院の場で適切な情報を共有し、疑問点にお答えすることで、すこしでも皆様が意欲を持って治療に向き合えたら嬉しく思います。

私自身だけでなく、他のコメディカルのスタッフの方々、そして患者様自身とコミュニケーションをとりながら一つのチームとしてこれからも診療にあたっていきたいと考えております。

若輩者ではありますが、血糖値の悪化を防ぎながら皆様の生活を豊かにできるよう今後も精進して参ります。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。



2023年度ひまわり会役員

役員任期は2年で、病院スタッフが役員を行うようになり、今年度は9期17年目となります。役員は1年目になります。今年もよろしくお願い致します。

会長：菊地友紀（看護部）

副会長：上原美佐（薬剤部）

監査：武田美佳子（臨床検査部）

理事：南太一（診療部）

会計：吉田華織（栄養部）

